

SA

織戸の加入、IS350投入、マサ監督の正式就任……
今季、新体制でGT300に参戦するバンドウの野望!?

S.Suzuki

今日の俺、EXILEみたいだろ?

織戸さん、身体が
微妙に揺れてますよ
二日酔いですか?

王役の座、 いただきます。

この撮影の前日にはマサ監督の誕生日を祝って、ふたりとも朝まで(つまり数時間前まで?)飲み明かしていたという。通常の「ドライバーと監督」という関係以上に、「仲間」としての意識が強い。

ORIDO X MA

S.Suzuki



織戸学 × 坂東正敬 監督 対談

織戸学のGT300復帰、IS350の投入など、
今季は何かと話題の多いRPバンドウ。
体制作りの裏話、ふたりが初めて出会った時のこと
そして、今季に向けた「バンドウの野望」を
ハイテンションで!? 語り合ってもらった

Text: 柴田珠美 (Tamami Shibata) Photo: 平田 勝 (Masaru Hirata) / 森山俊一 (Toshikazu Moriyama) / 上尾雅英 (Masahide Kamio) / 鈴木紳平 (Shimpei Suzuki)

——織戸選手は今年、久々のGT300です。聞いたところでは、なんでも開幕戦の予選はぶっつけ本番だったとか？
織戸…金曜が雨だったからドライで走るのには予選が初めて。運良くスーパードライに残れたけど、俺よりもチームメイトの(阿部)翼がGTデビューだったから、そっちのほうが心配で(笑)。
——開幕戦の予選7番手、決勝7位。これは予想とおり？
織戸…数字的には満足してないけど、自分たちの環境を考えるとベストな戦いができたかなあと。あと翼も頑張った。あいつ、レース後、ボロボロと泣きながらピットに戻ってきたね……。
マサ…「遅くてすいませんーん」って(笑)。
織戸…その姿にマサはぐっと心に刺さっちゃたんだよね(笑)。俺も相方を翼に決めて良かったなって改めて思ったし、新生チームでの初めてレース。チームをひとつにまとめていくことが、これから一番大事な課題なんだけと、その幕開けとしては上々の出来だったと思うな。

RPB加入、ホントの理由

——織戸選手がレーシングプロジェクトバンドウ(以下RPB)に乗ることになったきっかけは？
マサ…僕が口説き落としました(笑)。
織戸…しかも07年の開幕戦、俺がまだGT500に乗っている時から。(土屋)武士とピットに入るとマサがそこに待っていて「来年度の相方は誰にしますか？」って(笑)。
マサ…言っちゃったモン勝ちだと思っただけですよ。僕の中では織戸さんに乗ってもらうことは決まっていた、それが前提でどんな話を進めていった。最初のころはまだクルマが決まっていなかったから、織戸さんからの反応は鈍かったけど、最終的にクルマがIS350となった時にガッツと織戸さんの心をつかみました(笑)。極端に言えば僕が是非でも欲しかったのは「織戸学」のドライビングスタイルや技術よりも、人間的な部分。そこが何よりもチームと僕に必要な要素だったんです。

——織戸選手は「GT500に乗っていた」という気持ちの整理は、どう折り合いをつけたのですか？
織戸…たしかにGT500は夢だったから、そこにしがみつきたい自分もいた。フォーミュラじゃなく、自分にとってはGT500が最高のステータスだったから。それがなかなか8年。改めて俺、俺がこまめでやってこれたのは坂東(正明)さんのおかげであり、ヨコハマタイヤのおかげなんだと自分分がたどってきた道を振り返って、今後自分のレーシングドライバーとして歩む道を真剣に考え抜いた先に……マサが現れた。マサはレース界で言えばまだ経験はないけど、逆に言えば未知数の力がある。そういうタイミングで一緒にできるのはうれしことだし、何より坂東さんに恩返しできる機会を与えられたことがうれしかった。それに俺はクルマが好きだし、何よりも走ることが好き。「生涯、走り屋代表でいたい！」という思いが自分の

中であつた。俺がレーシングドライバーであるための意義みたいなモノに、改めて気づくことができる機会でもあったような気がしています。とにかく、マサとやろうと決めた瞬間からまったく迷いがなくなりましたね。
マサ…新車導入の開発ドライバーとしても織戸…そこ!! かつこい言葉を並べてきたけど、ぶっちゃけ、ISならやるよ!! っで感じ♡
マサ…えっ、僕じゃないんですか？(一同笑)

土屋圭市×坂東正明のDNA

——マサさんが正式に監督就任を告げられたのはいつですか？
マサ…07年の途中から自分で動いて良いという許可をもらいました。当初は社長(坂東正明氏)がGTアソシエーションに入ることに、兼任ができないのでRPBは辞めようかという感じだった。坂東正明がGTAに入ったのはモータースポーツが心底好きだからこそ入ったわけで、RPBを辞めてでも「モータースポーツのために頑張る」と決断したから。僕は親父ほどモータースポーツを好きな人間はいないと思ってるので、そんな熱い気持ちを持つ人間のDNAは受け継がなければならな

いと思いました。僕自身これまでさまざまな角度からモータースポーツに触れ、僕ができることは何かをずっと模索し続けてきた。まだまだスタートラインに立っただけですけど、ひとつだけ明確に見えたことは「カート上がりではないドライバーの方向性を見出せるチーム」がどこかにないとダメじゃないかってこと。それは土屋圭市さんと坂東正明が組んで作った道でもあります。
——そこからがマサ監督のスタートですね。
マサ…まずはスポンサー活動も含めて全部自分でやってみよう。坂東正明が歩んできた



織戸学 MANABU ORIDO

1968年12月3日生まれ。千葉県出身。90年にカーボーイドリコンGP初代チャンピオンに輝く。そこで坂東正明氏に見出され坂東商会に入社。91年に富士フレッシュマンでレースデビュー。その後はスーパーシルビア、ミラージュインターシリーズなどでチャンピオンを獲得し、GT500へと上り詰め通算2勝をマーク。現在、トップカテゴリーで活躍する中では数少ない「たたき上げ」のドライバーのひとり。

S.Suzuki

S.Suzuki



1976年3月31日生まれ。東京都出身。現在はGTA代表を務める坂東正明氏を父に持ち、今季から正式にレーシングプロジェクトバンドウの監督となる。00年はドライバーとしてヴィッツレースに、03年以降はアルテッツァレースにチーム監督として参戦。07年は父・正明氏に代わって「監督代行」としてGT300を戦い、第5戦SUGOで優勝。特技はサッカーで、ドイツへの留学経験もある。通称「マサ」。

坂東正敬 MASATAKA BANDON

チームにすることを目標にしています。

生まれて初めてレースで泣いた

——そもそもふたりの出会いは？

マサ：たぶん僕が高校生の時。当時ウチのおかあちゃんが坂東商会で働いていたからよく噂を聞いてましたね。「織戸学っていう若いドライバー志望の人が入ってきたんだよ。犬係してくれるから助かる」とって（笑）。

犬係？（一同笑）。

マサ：大型犬がいたんですけど、仕事表に犬の散歩の時間」というのがあって、それも仕事の一端だったんです（笑）。織戸さんとの初対面は、会社でものすごく怒られていて小さくなっている姿だったので、まさかこの怒

られていた人がドライバーだなんて思わなかった（笑）。親父に誘われて社員が集う釣りに行った時も、釣った生のマスを「織戸、食えっ」と言われて噛まされていたから、「この人、ホント、バカなんだなあ」というイメージでしたよ（笑）。

織戸：とんだだけだよ、俺（一同笑）。ま、その頃は坂東商会で一番の下っ端。で、ホントに怖い人たちがいた（笑）。仕事内容もそれまでやってきたメカニックではなく、坂東さんから「おまえはレースをやる人間なんだから営業をやって顔を売ったほうがいい」と言われて。今思えばありがたい環境だったのかもしれないけど、営業なんてまったく向いてないから、ホントに嫌で嫌で何度脱走しかけ

たことか（一同笑）。

——マサ監督は最初から坂東商会に？

マサ：いや当時はまったく就職するつもりはなかったですね。

織戸：彼はドイツにサッカー留学へ行ったんですけど、夢破れて帰ってきたやつ（笑）。で、最初はアルバイト的な感じだったけど、俺としては自分の仕事を手伝ってくれるやつが入ってきたから、犬係から解放されてラッキー（笑）。だったのと、ちょうどその頃会社を辞めて独立しようと思っていた時期だったから後釜じゃないけど、いいタイミングだった。

マサ：会社に入るまでドリフトで有名だったか、レースで活躍していることも知らなくて。自分の親父に関しても、友人からテレビに出て

たよと言われて「そんなに有名なのかな？」と思った程度。

——本腰を入れたのは？

マサ：織戸さんのクルマにかける情熱に触れてからですね。この人、コンビニの駐車場とかで「うーん」とか言いながら、いきなりクルマに潜ったり、車高調整したりするんですよ。当時の僕には理解不可能。ただ、織戸さんが好きなんだって最初は不思議に思った（笑）。ホント毎晩のように時に走りに行ったり、クルママイジリも延々とやってる。ただ、それで峠に連れていってもらったりしながら、そばで織戸さんを見ているうちに少しずつ興味味が沸いてきた。レースを見に行こうと思つたのも織戸さんがきっかけ。あとは織戸さんの周りに集まる仲間もすごくいい。何かあると固い絆があるというか協力体制に入る。織戸さんに関わる僕に対しても同様に接してくれるんです。織戸学という人間に興味を持つたことと、そしてGT500まで上り詰める人間が働いていた坂東商会にも興味があった。

——織戸選手は当時、坂東さんの息子、というだけでやりにくさはなかったですか？

織戸：最初はモチロン警戒した（笑）。だけど、それはすぐになくなりひとりの男として、先輩後輩として付き合い合えたね。彼は考え方がすごくニュートラル。レースに対してもまずは自分で経験しないと始まらないというスタンスから、自分でレース参戦もしたし、チームを作ってアルテッツァをやったりと、ひとつずつ経験を積み重ねてきた。ドライバーにはドリフト上りのドライバーを採用したりするのもマサ流。マサしかできないことですね。そんな紆余曲折を経て、いまは自分に一番あった道を選んだと思う。

マサ：本当にしつかりと自身の中で体感したのは、昨年のSUICO、セリカで1回勝たせてもらった時。生まれて初めてレースで泣きました。その時にフレッシュマンからGTDドライバーまで、レースに関わっているすべての人間は、「この味」を知ると「やめられねえんだな」ということが分かった。同時に、

親父の偉大さも痛感しました。ただのコンビニじゃないんだなということもやっと分かった（一同笑）。

それぞれの第2章

——IS350導入を決めたのは？

マサ：昨年の夏ごろですね。エンジンはフォーミュラ・ニッポンのエンジンで3リッター。セリカのFRに対してミッドシップだから、タイヤへの負担も軽減されるので引き出しが増えると思います。なおかつ5000のノウハウもかなり注入しているんで、チャンピオンを獲得するクルマだと思っています。IS導入は資金的にも大変になるのは分かっていたけど、強いチームにすることと同時に、何かモータースポーツを盛り上げるためにひと役買いたい思いも、導入を後押しした要素ですね。期待の織戸選手。新車に対する思いは？

織戸：やっぱり新車に乗れるというのはドラ

2008 RACING PROJECT BANDOH

SUZUKA CIRCUIT

M.Kamio



ROUND 1 新体制での初レース
着実に走って4ポイントゲット
予選：7番手 / 決勝：7位



ROUND 2 セリカ最後のレースは
スタート直後に接触、リタイア
予選：11番手 / 決勝：リタイア



ROUND 3 IS350のデビュー戦
予選1回目は2番手タイム
予選：7番手 / 決勝：9位

が沸いたのも
たきつけも
を受けたから
を総どりする



S.Suzuki

今回の取材はかつて織戸が勤めていた坂東商会で実施。織戸が勤務していた事務所は現在、第2工場として稼働しているが、当時の足跡はいまだに残っていた。

懐かしの
織戸学
坂東商会探訪



S.Suzuki

俺がマサと組むことを決めたとき
坂東(正明)さんから言われたんだよね
「頼んだぞ」って。なんとしてでも
マサにチャンピオンをプレゼントしたい

クルマに興味
レースを見に行っ
織戸さんの影響
今年は話題と成績



かつて織戸が使用していたヘルメットは、坂東商会で働いていた時代に「エンジン室に貼られていたマンセルのポスターを参考にして」考案されたもの。そのヘルメットをかたわらに置き、当時のことを懐かしそうに語った。

イバー冥利に尽きる。自分の色に染めていく過程は非常に楽しみ。クルマと対面した時に自分で感じたインスピレーションで何をやってあげられるかなと、ワクワクしています。——S350の初優勝はいつごろの予定でしょうか？

織戸…もちろん富士のデビューウインは狙っているけど、そんなに甘いもんじゃない。俺が考えるデビュー後の最初のターゲットはSUGO。間違いなくSUGOでは勝てると思ってます。本当はあまり言いたくないんだけど、SUGOは、俺の好きなサーキットでもあるしね（一同笑）。

峠の雰囲気や漂うオートボリスは？

織戸…それもあんまり言いたくないんですけど……愛してます（一同笑）。

——走り屋魂全開ですね（笑）。新生RPBがますます楽しくなってきました。

織戸…俺がマサとやることを決めた時に、坂東（正明）さんから「頼むぞ」と言われたんだよね。あのひと言には本当に感動した。8年間坂東商会で修行させてもらって、一度外に出て、再び戻って一緒にできるというのはすごく幸せなこと。モータースポーツを盛り上げていきたいという志も一致するマサと一緒にやっていけることもうれしい。ISという武器を手に入れて、強いチームを作って、坂東正敬監督にチャンピオンをプレゼントしたい。俺にとつてRPBはレーシングドライパーとしての第2章。マサにとつては監督2代目として、翼にとつても第2章。翼はエリート（の道から一回外れて泥を食う（挫折）経験をしているんですよ。そこがヤツ最大の強みでもある）。

最後に、RPBの今年の目標は？

マサ…絶対にチャンピオン。今年は織戸学とISともに話題と成績を総とりする予定です。いかに目立つか、どんな目立つか（笑）。

織戸…チャンピオンは必須条件。あとは目立ちすぎて嫌われちゃうぐらいの勢いで、しゃかりきにいく（笑）。今年、GT300の主役の座は俺たちがいただきます。



S.Suzuki

工場裏の駐車場。「当時、会社にアパートを借りてもらってただけで、悪友が遊びに来て騒がしいから退去させられてね（笑）。そこからしばらくの間は、この駐車場にワンボックスを止めてそこで暮らしていた。アドバン（犬）が裏山に向かって逃げ出すこともあったな。もう、捜索が大変で（笑）」

エンジン室や倉庫として使用されていた工場の2階「ここだよ、ここ。当時はつらくて、つらくて何度この2階の穴から飛び降りようかと思ったことか（笑）」



S.Suzuki

S.Suzuki



現在は倉庫となっているかつての社長室「この部屋に呼び出される時はいつもこんな感じ（写真）だった。ふかふかのソファがあったんだけど、一度も座らせてもらったことはなかった（笑）」

東京都がレーシングプロジェクトバンドウに対して発行する「認可工場」証明書。この公害防止担当部課（責任者氏名）の欄には織戸学の名前が!! 「俺、2級整備士の資格を持ってるからね」



S.Suzuki

S.Suzuki



「俺が働いていた時は、ここで富士フレッシュマンのハチロクがメンテナンスされていてね。あれがなんともカッコよくて憧れたよなー」